

福岡

090

⑧2 X 2025年度 小 論 文

問 題 冊 子 (1～2ページ)

注 意 事 項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 問題冊子の余白等は適宜使用してもよい。

以下の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

スポーツが文化として根付いていない日本では、所々に海外との違いが存在する。スポーツをすること、見ることは人々に喜びをもたらすが、そのツールとしての認知が希薄だ。スポーツは日常生活と別にあるものとして捉えられ、オリンピックやW杯のような世界的イベントでは、選手たちの活躍はブームのように一過性のものとして報じられ、消費される。

スポーツが文化の一つであるという認識が薄く、スポーツを支える土壌もあまりない。スタジアムなどのスポーツ施設が公的な組織のものであることが多いのも、その原因であり結果なのかもしれない。

幸野^{注1}は、そんな日本のスポーツ界の現実を直視して、立ち向かっている。彼の声を聞くと、スポーツ界の問題点が浮き彫りになってくる。

「日本にとってのスポーツは運動、つまり体育になっていると感じています。70年以上前、戦後に国民を健康にするために運動をさせようと考えて、学校にスポーツ施設をどんどん作った。国民を楽しませようとしたわけじゃない。本来、スポーツはラテン語の『デポルターレ』（気分を変える、楽しむ）という言葉に語源があると言われてるように、楽しむためのものであるはずだったのですが、学校に入れたことによって教育にすり替わってしまった。忍耐や努力、我慢、礼儀という教育的な要素になったのです。授業で体育を学び、中学生になると放課後に部活をやる。これが日本人のデフォルト^{注2}。それはスポーツではなく体育と言えるのではないのでしょうか」

千葉県市川市に城を構えた市川 GUNNERS は、そうした「スポーツのあり方」に異議を唱える。Jリーグ傘下ではない、地域の町クラブが大きな城を構え、根付いていくことで、模範的なクラブの姿を見せようとしている。

とはいえ、地域の町クラブがグラウンドを所有することは、そんなに簡単なことではない。もともとないものを作り上げていくには、莫大な費用がかかる。サッカー界、スポーツ界を啓蒙したいという思いだけでできるものではない。

注1 幸野健一。サッカー界において「育成のカリスマ」と高評価を受けている人物。「サッカーコンサルタント」の肩書をもつ。

注2 「デフォルト」は、ここでは「標準」の意。

(出典：氏原英明, 甲子園は通過点です 勝利至上主義と決別した男たち,
新潮社, 2021年8月)

問 本文を参考にしながら, 教育的要素が強いともいわれてきた日本の青少年スポーツの今後のあり方について, 「文化としてのスポーツ」と「体育としてのスポーツ」という2つの視点から, あなたの考えを800字程度で述べよ。